

# 医療法人仁愛会 ミュージズ皮膚科ペインクリニック 仁杉直子 理事長

「何でもウエルカムで自由。多種多様な人は」と幼少の頃に育ったニューヨークの魅力を語るのは、「医療法人仁愛会 ミュージズ皮膚科ペインクリニック」の仁杉直子院長。今は医師として、患者一人ひとりの性格やライフスタイルの違いを認めながら治療を進める。もともと麻酔科医。安心安全を第一に、全身に注意を払いながら患者の痛みをとってきた。医師になって10年経ってから皮膚科に入室し直して臨床経験を積み、2006年、JR埼京線・武蔵野線武蔵浦和駅から徒歩5分の場所に同院を開業した。「痛みが取れたり皮膚がきれいになったりすると、人は明るくなる」と話す仁杉院長自身も実は、学生時代まではニキビで悩んでいたとか。だからこそ患者の気持ちに寄り添えるのだらう。院長自らが組み立てたという家具に囲まれた開放的な空間で、話を伺った。  
(取材日 2015年6月18日)



麻酔科と皮膚科の両方を経験した医師だからできるトータル診断  
診療科目の一般皮膚科、美容皮膚科、痛みの科についてお聞かせください。

一般皮膚科では、お子さんから高齢の方まで皮膚に関する悩みや疾患を治療しております。美容皮膚科は大きく分けて、思春期のニキビやニキビ跡の治療と、40代以降の方のしわやたるみなどの相談を受けたり、常に新しい治療法を取り入れるが、ご希望にできる限り添える治療をさせていただきます。当院では最初は一級皮膚科に来院し、後に美容皮膚科に一般皮膚科に来院し、後に美容皮膚科に一般皮膚科になる方が多いです。ペインクリニック(痛みの科)に関しては、高齢の方が多く、帯状疱疹後神経痛や顎関節症、腰痛、腰椎ヘルニアなどの痛みを取り除く治療を行っています。

皮膚科とペインクリニック(痛みの科)を併設したのはなぜですか。

皮膚科にかかる帯状疱疹の患者様のうちの8割以上は痛みを伴い、ペインクリニックにフラットしていきます。そのため皮膚科とペインクリニックを併設することで同時に両面から診てあげることが出来ます。もともと私の専門は麻酔科で、10年ほどは麻酔科として勤務した後、皮膚科に入室し直して経験を積みました。ですので皮膚科と麻酔科を併設した当院を開業しました。

麻酔科と皮膚科の両方を経験した院長先生の強みはなんだとお考えですか。

麻酔科の医師は全身を診ることが求められます。そこから医師としてのキャリアをスタートさせたので、必ず、全身の状態を確認した上で皮膚の症状を診

断しています。これが私の強みだと思います。例えば、アトピー性皮膚炎で悩んでいる方は、心にも問題を抱えていることがありますが、皮膚が先か心か先かわかりませんが、そういう場合は心のしりを漢方薬で少し取ってあげること、皮膚の改善においてもいい結果が出てくる場合があります。また、帯状疱疹の後神経痛で、痛みが続くため、この先の人生、どうなるんだらうか、と自問的になっている方も多く、これは痛みを経験した方にはわからないことだと思ってしまう。そういう方には、痛みを取る治療をするだけでなく、痛みと上手に付き合えることを話すことも大事な見解があることを話すことも大事な見解がある。また、いてもたってもいられないような痛みで来院した患者様には、麻酔科としての経験を活かして痛みを軽減する試みを速やかに開始します。

患者との付き合いが長くなればなるほど強まる「何とかがしてあげたい」という思い

漢方治療も併用されているのですか。

いろいろな治療をしてきたものの症状の改善がなかなか見えない患者さんの中には、漢方薬を使うことで皮膚の状態が落ち着く方もいらっしゃいます。漢方での治療を希望して来院する患者様もいらっしゃいますが、西洋薬を全く使わずに治療することは、ほとんどありません。皮膚科では、初めに漢方薬を西洋薬と併用することで改善が明らかになる場合が多いです。結果が出ないという治療はなにも使わずから、後に、体質改善のために漢方薬だけを使うということがありますよ。

美容皮膚科はどのような方が受診されるのですか。

まず、インターネットで検索していただけるようなクリニックを作りたいと思っていました。首都圏は外国人もたくさん暮らすため、今年は英語と中国語の話せるカナダ人をスタッフに採用しました。週一回、日本人スタッフにも英会話教室を開いています。外国人は、母国と気候が違う日本で、肌のトラブルに悩んでいます。梅雨は日本特有ですから、あせもや水虫を初めて経験する方も多くいます。市販の薬は日本語表記ですから外国人にはわかりづらいんです。そういう方が安心して来院できるようにしたい。診療は私が英語で対応しています。また、皮膚科という枠にとわらず、病気になるための予防医学であるアンチエイジングにも力を入れていきたいと思っています。さらに健康長寿社会を実現するために、生活の知恵、薬やサプリメントの取り入れ方などの情報を発信していきたい。この形を整えていきたいと思います。クリニック講座を開く予定です。筋肉を鍛えることで、若々しい立ち振る舞い方が変わってくる上に、転倒しづくなるんです。これは医療モジュールです。他院と連携しているんことをやっていきたいです。時代のニーズに合わせて新しいものを取り入れながら、どなたも地域の方に還元していく、これは開業だからできること。本当に今、楽しいです。

最後に今後の展望をお聞かせください。

先が麻酔科の医師をめざした理由をお聞かせください。

人と人の付き合いだから、関係が長くなればなるほど、患者様を何とかしてあげたい、という思いも強くなるんです。そうやって細やかな心遣いができるのは、大きい病院とは違う点。また、当院の患者様は周辺にお住まいのご家族が多いため、一人の患者様の付き添いで待合室はこたえすほど。だから、家族ぐるみのお付き合いが、お子さんの成長にも見ることが出来るんです。これも開業医ならではの喜びですね。さらに、人は、痛みが取れると明るくなります。きれいになった人も明るくなりますよ。前向きな気持ちで治療を受けている方が多いから楽しいですね。

皮膚科という枠にとわらずに健康長寿社会を支える活動をめざす

先生が麻酔科の医師をめざした理由をお聞かせください。

大学で倫理の時間に「癌の患者様を治療する際、全てを話した上で治療するか。それとも、患者様には病名を知らせない状況で治療するか」という命題を出されました。私はいろいろ考え、神様でもない私が患者様の治療を自ら決断して携わるのは難しいかもしれないと感じました。そうであれば、治療向き合う患者様の痛みをどうやってあげたいか。それで麻酔科を目指しました。麻酔科の医師は、外科の先生を支える縁の下の力持ち。そういう仕事がいいかなと思ったんです。実は、学



生の時に、皮膚科が面白いと感じたことはあったんです。でも、自分にはニキビが多くて自信が持てなかったんです。ですが、医師になって10年以上経ってから皮膚科に入室し、初めてレーザー治療を受けた時、こんなにきれいな肌になると感動しました。開業する際はレーザー治療を取り入れて患者様に喜んでいただきたいと思います。治療で私も明るくなりましたから、治療中は辛い時期があるけれど、頑張り通っていたらいいように一生懸命に励ましていきます。

休日どのようにお過ごしですか。

夫と過ごすことが多いです。犬2頭と猫1匹も飼っている。動物の世話に追われています。今は夏の季節だから、庭で夏野菜を植えて栽培しています。小さい頃から動物が好きだったんです。

ドクターズ・ファイル スマートフォン版

「イマチカ検索」で  
今から診てもらえる  
近くの医院・病院をボタン1つで検索!

医療法人仁愛会 ミュージズ皮膚科ペインクリニック  
さいたま市南区別所7-2-1 武蔵浦和メディカルセンター  
TEL:048-866-4112  
武蔵浦和駅 / 皮膚科 麻酔科